

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 126 号	2012年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 年頭のあいさつ (会長 今井和男)

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎え、心からお慶び申し上げます。

去年は、会の運営活動につきましては、ご協力、ご指導を頂き、厚くお礼を申し上げます。

さて一年間を振り返って見ますと、維持管理が中心であったと思いますが、会の運営体制が変動した年でありました。概要等について申し上げますと、

I 運営体制への移行

・NPO 法人宇部環境コミュニティーの傘下での活動

山口県と土地所有者の間の借地契約も切れることになり、宇部市が土地を購入して《里山自然観察公園（環境学習の場）》NPO 法人へ管理を委託する新しい体制に移行した。

・NPO 法人へ会員の選出と理事の就任

新体制に備えるため、会より4名がNPO 法人へ選出した。

また、理事へ会長が加入を承認された。

II 活動の充実

・田植えから収穫祭の開催

一去年は一時休止にしたが、稲作等の環境教育が再認識され、田植えから、稲刈り、ハゼ掛け、収穫祭を実施した。

・親子観察隊と会員合同勉強会の開催

従来は観察隊員による勉強会であったが、会員の参加による合同勉強会は、大変に好評であった。

III 各協力団体との交流

宇部市地球温暖化対策ネットワーク外各協力団体との共催活動に参加した。

本年は過去の活動を反省しながら、ビオトープのコンセプトを念頭に可能な限り活動の充実を図りたいと思います。

最後に、「里山ビオトープ二俣瀬」のご発展と会員の皆様方のご多幸とご健康を祈念し、年頭のあいさつといたします。

2. 活動報告 (事務局 記)

—1月21日(土) 会長挨拶昨年度の土地問題解決報告・その他新年度の活動方針説明

又今後の市・うべ環境コミニティとの関わり契約については関根会員にて問い合わせ調査戴けることになりました。次回報告予定

初集会には20名の会員が参加されました。

①採決事項

平成24年度の活動方針

- ・稲作体験は継続実施する。昨年度同様

- ・親子自然観察会は継続実施する。詳細会議2月2日18時 山大駐車場集合
- ・シイタケ栽培継続実施する。 地域会員は原木切出しを改めて連絡する
- ・24年度ビオトープ総会は4月8日（第二日曜日）に決定されました。

②維持管理作業

草原川土手木杭打ち込み 木材置き場を整理し杭製作60本
 湿地帯の破損橋板・橋げた解体除去および整理
 作業の追加—午後4時～5時半スクラップの処分や東屋周囲の清掃・東屋組み立て式
 屋根の製作取付を車地会員にて行いました

③連絡事項 ぜんざいを食べながら懇親会

収穫祭の収支報告・人づくり財団からの各アドバイザーの募集説明
 生物多様性保全活動アンケート回答主旨説明・新会員や関係団体役員紹介

3. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者 予定なし

◎行事

—2月05日（日）維持管理活動（水路・散策橋修復工事）

—2月19日（日）活動日変更、エコアップ・維持管理活動（水路・散策橋修復工事）

※18日は車地観音様縁日のため

4. 来訪者の声

今月はありません

5. 会員の声 「 」 （ ）

今月はありません

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（44）マルタンヤンマ（ヤンマ科・トビイロヤンマ属）*Anaciaeschna martini* SELYS

岩手県や関東地方以西の本州、四国、九州に分布し、種子島、屋久島などの離島にもいますが少ないようです。朝鮮半島、台湾、インドにも分布しています。県内では6月上旬より8月頃まで見られますが、オスのトンボは生まれた後は殆ど人の目に触れることはないので、一般には“まぼろしのトンボ”と言われます。黄昏飛翔性があり、日の出前より早朝にかけてと日没後暗くなるまでが活動時間で、日中は林の中に休止しています。オスはいったん飛び立つと普通のトンボのように休むための休止はせず、大空高くあるいは草原の上空を飛び続け、餌をとったりメスと交尾します。交尾の場所も高い木の梢で行い、私たちの目にはなかなかとまりませんし、交尾の姿をまだ見ていません。

メスは産卵のために池に来ますので簡単に採集できます。産卵する場所を決めると垂直に降下し、産卵を終えると再び垂直にホバリングして水草の上にとどまります。その時をねらって採集します。

不思議なことにヤゴを飼育しオスのトンボを羽化させても、美しいブルーの体色は出ません。自然の中で時間をかけて成長しないと発色しないようです。本種だけでなくヤブヤンマやその他のヤンマにも当てはまるようです。

オスの採集は黄昏飛翔を狙う以外にはなさそうです。筆者も本種のオスを採集するのに数年を要しました。黄昏飛翔する場所を見つけることが始まりで、次に空高く飛んでいるヤンマをいかにしてネットインさせるかが大変でした。運が良ければ林の中で休止中の本種を見つけることができます。

筆者はたまたま運が良かったのでしょう、宇部市内で♂♀の休止をとらえることができました。しかし、10年も前の記録であり、それ以来一度も見ることはいませんでした。



マルタンヤンマ ♂



マルタンヤンマ ♀



マルタンヤンマ 羽化殻



マルタンヤンマ ♀の羽化

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

- 1) 平成 24 年度の大きな活動（稲作体験・親子自然観察隊・シイタケ栽培）が従来どおり行うことに決定されました。問題はビオトープの維持管理は、活動日に参加者が減少している中、活動の負荷が大きくなってきています。活動内容を 100%クリアするには、会員皆様の出席率を上げる事、新会員を募って参加者を増やして、特に安全に散策出来るよう維持管理をしなくてはなりません。

会員皆様の考え方は、いろいろ夢も有り理想も含めて立派な考えを述べられますが、行動が伴うか？も考えての決定事項と確信しております。

- 2) 上記を踏まえ昨年参加があまり出来なかった会員の皆様・初集會に欠席された方々気を改めての活動日の参加をお願いいたします。

8. 編集後記

21日は今年初めての活動日であり、今年の計画について話合いがもたれた。稲作、自然観察会、シイタケ栽培など維持活動以外の行事については、皆さん「やろう」という声が多い。昨年は月2回の活動日を、維持活動と行事にそれぞれ分けたので、維持活動は月1回となり、夏場は草の勢いもよく、臨時に草刈をすることもあった。行事への参加者は多いが、維持活動への参加者は少ない。誰でも楽しい事を好むのは仕方ない事だと思いますが、時間をやりくりして維持活動に参加してもらおうと、作業ははかどると思います。会員の平均年齢も時間に合わせて上がっています。夏場の作業は暑く厳しいものですが、ここは皆さん頑張って参加して欲しいと思います。そして、若い人に会員になって欲しいという思いは、募るばかりです。若い人に声をかけましょう！

（西原 一誠 記）